



主体的・対話的で深い学びの実現について

四月になり、新年度を迎えましたが、各学校におかれましては、引き続き様々な配慮の下で教育活動を工夫されていることと思います。本年度も研修内容の充実を図り、皆様のお役に立てるよう努めてまいります。

さて、平成29年に告示された中学校学習指導要領が3年間の移行期間を終え、本年度より全面実施となります。各教科等において「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進することが求められています。

(1) 主体的・対話的で深い学びの主語は『子ども』

学習指導要領解説は、主体的・対話的で深い学びを、子どもを主語にして説明しています。しかし、授業を実施するのは教師です。子どもが「どのように学ぶのか」の姿として「主体的・対話的で深い学び」であるとしても、指導する立場からすると、授業をどのように変えていけば子どもの「主体的・対話的で深い学び」が実現されるのか、指針を求めたくります。

国立教育政策研究所のホームページで「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点」と題する資料が公開されています。

〈表〉主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業者の視点

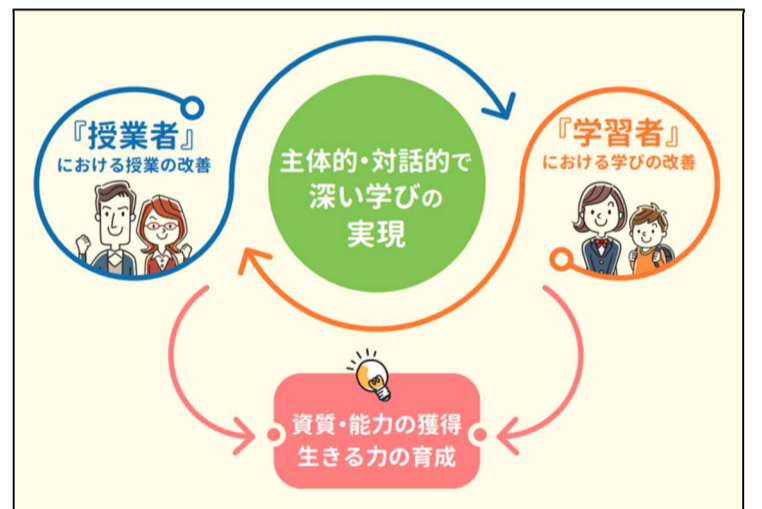
	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶことに興味や関心を持つ 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける 見通しをもつ 粘り強く取り組む 自己の学習活動を振り返って次につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を振り返る 具体物を提示して引きつける 子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する 子供が自らめあてをつかむようにする 学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる 子供が自分の考えを持つようにする 子供の思考を見守る 子供の思考に即して授業展開を考える 子供の考えを生かしてまとめる その日の学びを振り返る 新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> 子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める 先哲の考え方を手掛かりに考える 	<ul style="list-style-type: none"> 思考を交流させる 交流を通じて思考を広げる 協働して問題解決する 板書や発問で教師が子供の学びを引き出す
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる 知識を相互に関連付けてより深く理解する 情報を精査して考えを形成する 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう 	<ul style="list-style-type: none"> 資質・能力を焦点化する(つきたい力を明確にする) 単元や各授業の目標を把握する ねらいを達成した子供の姿を具体化する 教材の価値を把握する 単元及び各時間の計画を立てる 目標の達成状況を評価する

(2) 授業改善を学習者の視点と授業者の視点から

右の表は、授業後の検討会で陥りがちな授業研究の場面を改善する視点を与えてくれます。「どのような具体物を提示したらよかったのか」と悩む教師に、「このような具体物がある」とあたかも正答であるかのごとき知識を与えるのではなく、「子どもが興味や関心を持つ具体物はどのようなものだろうか」と問うことで自らの内省を深めるように促します。検討すべきは具体物そのものでなく、子どもの興味・関心を引きつけることだと、意識させてくれます。

新しい学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」は、マニュアルや手法に縛られがちな授業を子どもの視点を意識することで改善を促すものです。

〈図〉主体的・対話的で深い学びに向けた学習者と授業者の視点



(3) 学習者の視点と授業者の視点の往還

国立教育政策研究所の資料はこう結論づけています。「主体的・対話的で深い学び」は、学習指導要領解説が紹介している学習者の視点と、授業者の視点の双方が往還することで実現されるものです。

具体的には、研究会の際に、「教師主語」と「子ども主語」の2つの視点から協議をしていくことがポイントになります。あらためて、目の前の子どもや授業について語り合ってみませんか。

研修 4月 教育研究所事業予定

1日 (木)	初任者研修①及び開講式	厚生会館
2日 (金)	初任者研修指導教員等連絡協議会①	厚生会館
5日 (月)	中堅教諭等資質向上研修①及び開講式	厚生会館
6日 (火)	第116期教育研究員入所式	厚生会館
12日 (月)	初任者研修校長連絡協議会①	厚生会館
15日 (木)	初任者研修②	厚生会館
20日 (火)	教職2年目研修①	厚生会館

第116期教育研究員入所のお知らせ



4月6日に、令和3年度第116期教育研究員入所式を行いました。今後の研修の様子については、研究所のWebに掲載していきます。

研修会場変更のお知らせ

教育研究所が主催する研修会は、厚生会館を主会場として実施しておりましたが、令和3年5月から令和4年2月までは、研修会場としての使用ができなくなりました。

それに伴い、研修会場が毎回変わりますので、公文及び実施要項をご確認いただき、参加の際は、会場の間違ひのないようご注意ください。



タブレット端末の活用について

令和3年度は、「GIGAスクール構想」の元年となります。

市内全児童生徒一人1台のタブレット端末が配布されたことにより、ICT機器の活用を教師から児童生徒が主体となって活用できるようになります。那覇市のめざす子供の姿「情報を効果的に活用し、自分の考えを形成できる子」を育むため、教育実践の中で、必要に応じてタブレットを効果的に活用しながら、授業改善のツールとして生かしていきます。

